

平成27年度 十勝農試定期作況報告 秋まき小麦

月	作況	事由
10月20日	やや不良	播種は平年より1日早く、出芽期は3日早かった。出芽後、気温は平年より低く経過し、葉数は平年よりやや少なく、草丈は平年並みで、茎数は少なかった。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
5月20日	平年並	融雪期は4月3日で、雪腐病の発生は少なかった。起生期の茎数は越冬前を上回っており、越冬状況は良好であった。草丈は平年より高く、茎数は平年並であった。 以上のことから、現在の作況は平年並みである。
6月20日	やや不良	5月下旬は高温・少雨に経過したため生育は早まり、出穂期は平年より6日早い6月1日であった。一方、干ばつ傾向となったことから草丈は平年より低く、茎数は平年より少なかった。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
7月20日	やや不良	6月下旬は低温に経過したが、7月中旬は高温・多照に経過し、成熟期は平年より5日早い7月20日であった。干ばつ傾向が続いたため稈長は平年より短く、穂数は平年より少なかった。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
8月20日	良	6月下旬から7月上旬にかけて低温に経過し、さらに7月上旬は日照時間が長かったため、登熟は順調に進んだ。このためリットル重、千粒重は平年より重く、2.2mm篩い上率はやや高かった。子実重は平年比129%で多収となった。 以上のことから、現在の作況は良である。
11月20日	良	播種は平年より1日、出芽期は3日それぞれ早く、越冬前の生育は順調であった。雪腐病の発生は少なく、越冬状況は良好であった。5月中旬までの気象は順調に経過し、生育は概ね平年並みであった。5月下旬以降は干ばつ傾向となり、出穂期は平年より6日早かったが、草丈、茎数は平年を下回って推移した。成熟期は平年より5日早く、稈長は短く、穂数は少なかった。6月下旬から7月上旬にかけて低温に経過し、さらに7月上旬は日照時間が長かったことから登熟は順調に進み、リットル重、千粒重は平年より重く、2.2mm篩い上率はやや高く、子実重は平年比129%で多収となった。検査等級は1等であった。 以上のことから、本年の作況は良である。

生育データ

品種名	きたほなみ			
	本年	平年	比較	
項目/年次	本年	平年	比較	
播種期(月日)	9.22	9.23	△ 1	
出芽期(月日)	9.29	10.2	△ 3	
起生期(月日)*	4.10	-	-	
出穂期(月日)	6.1	6.7	△ 6	
成熟期(月日)	7.20	7.25	△ 5	
葉数(枚)	10月20日	2.6	3.2	△ 0.6
	11月15日*	5.3	-	-
草丈(cm)	10月20日	17.6	17.7	△ 0.1
	5月20日	50.6	46.7	3.9
	6月20日	85.4	95.8	△ 10.4
茎数(本/㎡)	10月20日	252	443	△ 191
	11月15日*	1,263	-	-
	起生期*	1,561	-	-
	5月20日	1,259	1,206	53
成熟期	6月20日	582	755	△ 173
	稈長(cm)	77	88	△ 11
	穂長(cm)	8.5	8.6	△ 0.1
穂数(本/㎡)	562	720	△ 158	
子実重(kg/10a)	862	666	196	
同上対平年比(%)	129	100	29	
リットル重(g)	852	814	38	
2.2mm篩い上率(%)	95.8	94.3	1.5	
千粒重(g)	42.6	38.6	4.0	
検査等級	1	2上	-	

備考1) 平年値は、前7か年中、平成25年収穫(豊作)、22年収穫(凶作)を除く5年平均。年次は収穫年。

備考2) △は平年より早、少、短を表す。*は越冬前後の生育を示すが、平年値がないため本年分のみ示した。

耕種概要

一区面積(㎡)	区制	前作物	畦幅(cm)	播種日(月日)	播種量(粒/㎡)
9.6	4	緑肥トウモロコシ	30	9.22	255

肥料名	施用量(kg/10a)	要素量(kg/10a)				備考
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	
S502	80	4	16	9.6	4	基肥
硫安	38	8				追肥(4/14)
	19	4				追肥(5/25)